

作成年月日	令和2年8月3日
作成部局課室名	農政環境部農林水産局畜産課

## 需要に即した神戸ビーフ供給力強化対策の推進状況

### 1 趣旨

国内外の神戸ビーフの需要に応えるために、繁殖雌牛の増頭対策や減頭抑制対策、受精卵移植による肥育素牛増産など供給力強化対策を推進している。

加えて、神戸ビーフの魅力について展示物等を拡充した神戸ビーフ館とともに、増築により機能を充実する但馬牛博物館を通じて国内外への情報発信を強化するなど、さらなる需要拡大を図っていく。

### 2 令和元年度の繁殖雌牛の増頭実績

- (1) 繁殖に供する雌牛を全て登録する業務を行う(公社)全国和牛登録協会を通じて調査した但馬牛繁殖雌牛の実頭数は、14,060頭で前年比578頭増であった。
- (2) また、農林水産省の畜産統計は、繁殖雌牛飼育頭数は17,100頭(前年比900頭増)であった。
- (3) 枝肉価格、子牛価格ともに平成30年度をピークに低下しているものの、コロナの影響が出る令和2年2月までは依然として高値で推移していたため、繁殖農家の増頭意欲が維持された。
- (4) 近年、牛舎整備規模が拡大しており、8年間で約1,650頭規模の整備を進めている。今後も当該牛舎への繁殖雌牛の導入を計画的に実施していく。

【表1】和牛登録制度に基づく但馬牛繁殖雌牛登録頭数

	27年度	28年度	29年度	30年度	R1年度
頭数	12,793	12,925	13,158	13,482	14,060
前年比	—	+132	+233	+324	+578

【表2】(参考)農林水産省「畜産統計」※による繁殖雌牛頭数

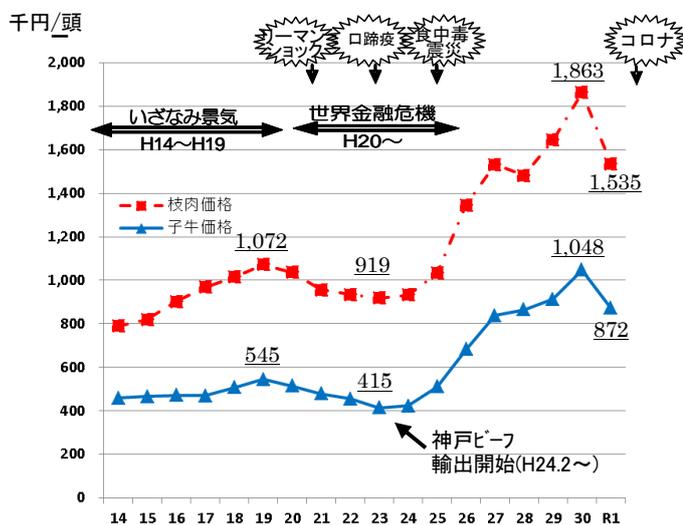
	基準 H18.2.1	18年度末	22年度末	23年度末	25年度末	28-29年度末	30年度末	R1年度末	R2年度末
実績頭数	14,500	14,800	16,000	15,900	16,000	16,100	16,200	17,100	目標
増頭数	—	300	1,200	△100	100	100	100	900	20,000

※個体識別情報による推計値、繁殖に供していない子牛も含む

【表3】新たに整備した牛舎への繁殖雌牛導入実績・計画※

年度	25	26	27	28	29	30	R1	R2	R3~6	計
整備規模(頭分)	116	81	110	326	370	76	305	263	—	1,647
雌牛導入(頭)	—	20	74	85	203	163	240	275	587**	1,647

※平成25~令和元年度は実績、令和2年度は実施見込み ※令和3~6年度は令和2までに整備した牛舎の雌牛導入計画数



但馬牛枝肉価格と子牛価格の推移

#### 【枝肉価格の動き】

※価格は景気、牛肉に関する事件・事案の影響を受ける。

- ① H13-14: 国内 BSE 発生により下落したが、但馬牛は産地履歴が厳格に規定されているため、いち早く回復
- ② H15-19: 牛肉のトレサリティー制度の確立により全国的に上昇
- ③ H20-23: 景気低迷、口蹄疫の影響等による消費減退で下落
- ④ H24-30: 各種増頭対策の充実と総合的推進の結果、V字回復し、過去最高の水準で高値維持
- ⑤ R1: アジア圏の和牛肉の飽和感や和牛肉の高騰による国内消費の鈍化によって枝肉価格が低下

#### 【子牛価格の動き】

価格は枝肉価格と連動して推移し、H24以降、雌牛導入の支援の充実やブランド強化、輸出などの総合的な対策推進の結果、V字回復し、高値維持していたが、枝肉相場と連動して下落

枝肉及び子牛価格が低下しているが、依然として子牛価格が高値で推移しているため、増頭意欲は維持

### 3 神戸ビーフ供給力強化対策の実施状況と計画

#### (1) 繁殖雌牛の増頭対策

##### ア 牛舎整備の状況

国・県補助事業等を活用した牛舎整備を支援

【表4】牛舎の整備状況

年度	国・県補助事業		制度資金	
26	5 戸	81 頭	0 戸	0 頭
27	7 戸	110 頭	0 戸	0 頭
28	7 戸	326 頭	0 戸	0 頭
29	11 戸	363 頭	1 戸	7 頭
30	3 戸	56 頭	1 戸	20 頭
R1	4 戸	250 頭	2 戸	55 頭
R2(計画)	5 戸	263 頭	—	

##### イ 繁殖雌牛の導入

県単事業や国補助事業を活用した繁殖雌牛の導入を支援

【表5】補助事業を活用した導入頭数

年度	県単事業	国補助事業等	計
26	797 頭	243 頭	1,040 頭
27	760 頭	248 頭	1,008 頭
28	900 頭	441 頭	1,341 頭
29	900 頭	440 頭	1,340 頭
30	889 頭	328 頭	1,217 頭
R1	900 頭	314 頭	1,214 頭
R2(計画)	900 頭	300 頭	1,200 頭

##### ウ 新規就農者の状況

毎年、一定数の独立、雇用就農者を農高生等から確保

【表6】新規就農者の状況

年度	独立就農	雇用就農(うち法人)	計
26	2 人	8 人(5 人)	10 人
27	5 人	11 人(8 人)	16 人
28	13 人	5 人(4 人)	18 人
29	5 人	5 人(4 人)	10 人
30	5 人	16 人(11 人)	21 人
R1	9 人	16 人(8 人)	25 人

##### エ 増頭戦略会議の開催

県内 16 地域で生産者、JA、市町、県機関等で構成する増頭戦略会議を組織し、新規就農者の支援や規模拡大に向けた補助事業等の活用を推進している。

##### オ 畜産参入支援センターの設置

令和元年度より「畜産参入支援センター」を畜産課内に設置し、総合窓口として市町、JA等と連携して、施設用地の掘り起こしや紹介、補助事業による支援策の活用相談等を実施している。これまでに 22 件、うち肉用牛は 12 件の相談があり、繁殖経営で 1 件が経営を開始、1 件が用地を確保し、営農に向けた準備を行っている。

【表7】畜産参入支援センターの相談者の取り組み状況

段階	就農場所	現状	目標
経営開始	加西市	繁殖雌牛 4 頭、肥育(去勢) 2 頭飼育	繁殖・肥育 50 頭
準備中	淡路市	国補助事業を活用して、放牧地及び簡易牛舎を整備予定	繁殖 24 頭

(2) 繁殖雌牛の減頭抑制対策

ア 但馬牛繁殖経営への支援

子牛を育成するこうべ育成牧場（神戸市西区）のモデル運営や、妊娠牛供給センター（神戸市北区・豊岡市）を支援し、新規参入者等を対象に妊娠牛の供給を開始した。

イ ヘルパー組織の運営促進

作業の省力化・効率化のための器具機材の導入を支援している。

ウ 但馬牛経営継承バンクの活用推進と牛舎改修支援

離農予定者から牛舎、雌牛等を継承する但馬牛経営継承バンクへの登録と新規就農者や増頭希望者等のマッチングを推進するとともに、継承牛舎の改修を支援する。

(3) 神戸ビーフの増産対策

【表8】受精卵移植による但馬牛生産頭数

年次	頭数
26	23頭
27	69頭
28	128頭
29	292頭
30	292頭
R1	299頭

ア 受精卵移植による神戸ビーフ素牛の生産拡大

酪農家や交雑種肥育農家へ普及を進め、受精卵移植や分娩事故防止対策の支援により但馬牛肥育素牛の生産の拡大に取り組んでいる。また、畜産技術センターによる受精卵供給体制を確保し、増産を支援している。

イ 神戸ビーフの認定率の向上

県立農林水産技術総合センターが開発した「但馬牛肥育マニュアル」の普及定着が進み、生産者の飼養管理技術の向上や改良が図られたことにより、神戸ビーフの認定率が年々上昇している。

【表9】神戸ビーフの認定頭数と認定率

年度	神戸ビーフ認定頭数	神戸ビーフ認定率
24	3,948頭	56.9%
25	4,679頭	65.3%
26	5,077頭	72.7%
27	4,947頭	74.9%
28	5,302頭	79.7%
29	5,557頭	82.1%
30	5,383頭	83.9%

【表10】「但馬牛」「神戸ビーフ」の定義

歩留等級	「A」又は「B」											
肉質等級	1	2	3	4				5				
脂肪交雑	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
ブランド	28～60ヶ月齢			「神戸ビーフ」 雌：270～499.9kg、去勢：300～499.9kg 「但馬牛」								

- ① 本県の県有種雄牛のみを歴代に亘り交配した但馬牛を素牛とし、
- ② 繁殖から肉牛として出荷するまで神戸肉流通推進協議会の登録会員（生産者）が本県内で飼養管理し、本県内の食肉センターに出荷した牛

4 神戸ビーフの需要拡大対策

(1) 海外輸出の展開

神戸ビーフの輸出は、平成24年2月の開始から23の国・地域に拡大し、令和元年度には、和牛マスター食肉センター（姫路市）が米国・EU等への牛肉の輸出認定施設となり、県内一貫で但馬牛・神戸ビーフが輸出できる体制が整備された。



和牛マスター食肉センター 対米輸出認定神戸ビーフ出発式

【表11】神戸ビーフの輸出実績（H30、R1年度）

地域		欧州	北中米		アジア				中東	オセアニア	合計	
輸出先		EU圏※1	米国・カナダ	メキシコ	台湾	香港	シンガポール	マカオ	その他※2	UAE	オーストラリア	合計
H30	頭数	273	123	74	63	22	48	56	25	6	4	694
	量(kg)	16,551	5,792	5,195	10,739	3,620	1,616	2,632	947	1,409	641	49,142
R1	頭数	248	117	64	51	18	31	32	39	8	3	611
	量(kg)	11,578	5,339	3,687	5,084	2,336	2,213	1,478	2,317	1,064	475	35,571

※1 ドイツ、モナコ、デンマーク、ベルギー、オランダ、フランス、スイス、イギリス、スペイン、イタリア

※2 フィリピン、ベトナム、タイ、ロシア

※ 速報値

## （2）情報発信力の強化

令和元年度に「神戸ビーフ館」では展示物の拡充や多言語対応システムを導入し、外国人観光客への案内を充実させた。また、世界で活躍するサッカーの岡崎慎司選手と元ラグビー日本代表の大畑大介選手を「但馬牛・神戸ビーフ応援大使」に任命し、国内外に但馬牛・神戸ビーフの魅力や歴史を広く情報発信している。

さらに、10月には海外のバイヤー、シェフ、ジャーナリストを招いて「神戸ビーフセミナー」を開催し、海外での需要の喚起を図った。

加えて、平成31年2月に日本農業遺産の認定を踏まえ、県立但馬牧場公園内の「但馬牛博物館」では令和2年度にPRスペースの拡充を予定しており、引き続き両館を情報の発信拠点として、国内外の来場者に但馬牛・神戸ビーフをPRしていく。



海外顧客向け神戸ビーフセミナー  
(神戸ビーフ館)

## （3）神戸ビーフの美味しさのPRとブランド管理

「美味しさ」の指標であるモノ不飽和脂肪酸※1、小ザシ※2のデータを県内食肉市場で収集し、生産現場、食肉流通現場に分析結果を提供しているほか、但馬牛の改良に活用している。また、令和元年度に神戸肉流通推進協議会は、神戸ビーフのDNA型鑑定による管理システムを稼働し始めた。本物の「神戸ビーフ」の美味しさを世界中へ届けるため、ブランド管理の徹底を図る。

令和2年度は、「美味しさ」の指標を食肉市場で表示販売することで、購買者や卸事業者、飲食店等に神戸ビーフの特長を知ってもらい、需要拡大につなげる。

※1 オレイン酸、パルミトレイン酸などの不飽和結合（二重結合）を一つもつ脂肪酸で、牛肉の風味に影響する。

※2 細かいサシ。筋肉内脂肪のうち細かい脂肪交雑粒子。



モノ不飽和脂肪酸の測定

〈問い合わせ先〉

農政環境部農林水産局畜産課肉用牛振興班 TEL078-362-3454

## 【参考】 新型コロナウイルス感染症の影響と緊急対策

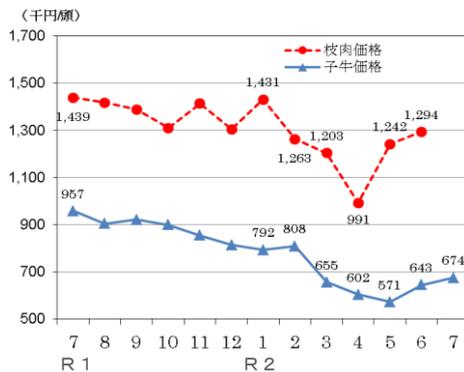
### (1) 但馬牛・神戸ビーフへの影響

#### ア 子牛・枝肉価格の推移 (図1)

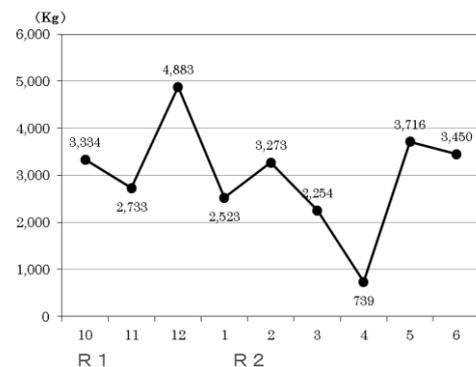
新型コロナウイルス感染症拡大によるインバウンドの減少や飲食店等の休業などによって、令和2年2月から枝肉価格、3月から子牛価格が急激に低下したが、国内外の経済活動の再開に伴い、5月以降は回復基調にある。

#### イ 神戸ビーフ輸出量の推移 (図2)

神戸ビーフの輸出量は、輸出国における外出自粛等による影響によって、4月の輸出量が激減したものの、台湾や香港などの経済活動の再開に伴い、東アジア地域で輸出量が急激に増加している。



【図1】直近の但馬牛枝肉価格と子牛価格の推移



【図2】但馬牛・神戸ビーフの輸出量 (速報)

### (2) 緊急対策の取組状況

#### ア 経営安定対策の現状

(ア) 肥育牛の販売価格と生産費の差に対する価格差補てん

近畿ブロックの標準的販売価格が兵庫県の生産費を下回った場合に差額の90%を交付する。補てん実績は5月(3月出荷分)295,419円/頭、6月(4月出荷分)351,108円/頭が交付された。

#### イ 生産性向上対策

(ア) 肉質向上に関する肥育技術改善の支援

肥育経営が飼料・血液分析などに基づく肉質向上につながる肥育技術の改善に取り組んだ場合、出荷頭数に応じて交付金が9月から交付される。

(イ) 子牛生産の経営改善の取組に対する支援

肉用子牛の全国平均価格(月別)が、発動基準を下回った場合に、子牛の疾病防止等の経営改善につながる取組を行う生産者に対し、販売頭数に応じて奨励金が交付される。5月、6月ともに発動基準を下回らなかったため発動はなし。

#### ウ 但馬牛・神戸ビーフの需要喚起及び消費拡大

(ア) 県産ブランド牛肉消費拡大キャンペーン

県産ブランド牛肉を5,000円購入毎に、次回の購入に使える1,000円分のクーポン券を発行し、7月23日(木・祝日)からキャンペーンを開始する。

(イ) 県産牛肉等の学校給食提供の支援

県内の小中学校の給食に神戸ビーフなどを2学期から提供し、消費拡大を図るとともに、但馬牛の歴史や神戸ビーフの美味しさを伝える出前講座により食育活動にも取り組んでいく。